

Y06a 日本天文学会におけるジュニアセッションの試みについて

吉川真、縣秀彦、有本淳一、石川直美、大山真満、小野智子、鈴木文二、谷川智康、永井智哉、西村昌能、西山広太、長谷川直子、松本直記、室井恭子、矢治健太郎、山岡均、渡部潤一（ジュニアセッション世話人会）

日本天文学会の年会では、主に中学生と高校生が発表を行うジュニアセッションという試みを行っている。ジュニアセッションについて検討を始めたのが1999年のことであるから、すでに約3年が経過しており、実際に開催したジュニアセッションは2002年の春季年会におけるものも含めると4回となった。ここでは、今までに開催したジュニアセッションについてその状況等をまとめるとともに、今後のあり方についても議論する。

まず今までのジュニアセッションについて日付・場所・発表件数等を簡単にまとめてみると、第1回[2000年4月3日(月)、東京大学、口頭14件、ポスター3件、参加者数約250人]、第2回[2001年3月26日(月)、千葉大学、口頭10件、ポスター3件、参加者数約250人]、第3回[2001年10月6日(土)、イーグレひめじ、口頭6件、ポスター1件、参加者数約150人]となる(第4回は予稿原稿提出時には未定)。ここで第1回と第2回は春休みと重なる春季年会時に、また第3回は秋季年会時に行ったものである。第3回の発表件数が少ないのは、学校が休みではなかったことが影響しているものと思われる。また、発表の内容であるが、基礎的な事項についての研究から高度なものまで様々であったが、いずれも熱心に活動された内容であった。

今後についても、このジュニアセッションの試みを継続していきたいと考えるが、その場合、如何にしてより幅広い学校からの参加がなされるようになるかが1つの重要な点になると思われる。また、より天文教育そして理科教育に役立つようなあり方についても検討を続けていきたい。